



西尾張ブロック第11号

平成21年9月25日発行

< 目 次 >

| 1 | 第 6 回 一 泊 研 修 の 旅 に 参 加 して ・・・・・・・・・ 一宮 支部 | 佐藤 忠悟 |
|---|---|---------|
| 2 | アレルギーっ子防災対策講習に参加して····· 江南支部 | 今井 節子 |
| 3 | 防災よもやま話「8月の一週間の報告」 ・・・・・・ 名古屋大学大学院教授 | 福和 伸夫 |
| 4 | 清須市東部自主防災会の防災訓練 · · · · · · · · 清須支部 | 武藤 康正 |
| 5 | 北名古屋市防災訓練総合会場 DIG講習 · · · · · · · 北名古屋支部 | 山下喜三子 |
| | 北名古屋市防災訓練に参加して · · · · · · · · 北名古屋支部 | 堀内 千秋 |
| 6 | 家 具 転 倒 防 止 活 動 · · · · · · · · · · · · 一宮支部 | 伊藤 善之 |
| 7 | 小学校での「防災の話」 ・・・・・・・・・・・・・ 稲沢支部 丿 | 村 荘一朗 |
| 8 | 「HUG(避難所運営ゲーム)講習会」開催のお知らせ ・・・・・・ 西尾張 | ブロック研修部 |

1 第6回一泊研修の旅に参加して

気象台精密地震観測室・旧山古志村 一宮支部 佐藤 忠悟

平成21年7月3日(金)・4日(土)の一泊研修で、気象台精密地震観測室見学と中越地震山古志村復興状況を視察した。私のAPLAの研修への参加は、今回で2回目。防災リーダーとして活動するには、災害地を見て勉強するのが一番とのリーダー会メンバーのお誘いで参加した。今回は山古志村。災害時のテレビ放送は毎日見ていたので、実際の場所に立って現状を見たかった。都市災害と山間地の災害は、どう違うのか? 現地の人に体験を聞くのが一番と思った。

気象台精密地震観測室がある松代地震観測所では、到着時間が少し早く待たされた。もともとは、戦時中の大本営及び天皇の避難所として作った所で、思った通り古いし狭かった。山の地質が安定していた為、戦後、地震観測所として使用する事になった。中のトンネルは、大規模であった、戦時中どんな風に使うつもりだったのか、そちらのほうが興味がある。観測施設の機器はかなりの高水準で、北朝鮮の核実験を観測したり、インドネシアの地震観測を重点に、世界中の地震観測をしている。

バスは、一路山古志へ・・・高速を下りて、今晩のお宿、蓬平の和泉屋旅館に着いた。 その晩は、長島衆議院議員を迎えて会食をした。名古屋の鳥山さんより、今回はあくまで も研修旅行で、物見遊山ではありませんと釘を刺されて、乾杯・・・長島議員は、お1人



お1人に声を掛けられ、話をお聞きししながら宴会は続いた。

明けて4日、幸い天気も良く山古志支所に着くと、長島議員が出迎えてくれた。記念写真後、同所で青木支所長による災害時のビデオとお話があった。バスに乗り、災害現場を巡回した。両サイド山、下は谷、当時の山崩れや道の切断等説明を受けるが、災害より5年も経ち、新緑で当時の面影は草木に覆われて、所々で確認するのみ。山頂に着き災害地を見ると、道路は山の裾にあったが全滅で、現在の道は山の上のほうへと、部落も道路も移転してしまった。一車線しかなかった道路は、全線二車線化された。とても普段ではできない工事だが、災害復興でできた。

長島元村長の国・県への陳情の苦労は、計り知れない苦労であったと話された。その中でも、県の窓口より国交省の役人の方が、話がわかると言われた。私は、山村はここ(山古志村)だけではない、現在全国至る所に同じような過疎が生まれている。そこに住む人達は、山や森の自然の中で、自然と共有しながら暮らしている。便利さを求め町で暮らすのも一つの生き方なら、山間僻地と云われようが、そこに住むのも一つの生き方である。人には、みな心の故郷を持っている。育ててくれた村や、山・川で遊んだ記憶は、どんな人の中にも思い出として持っている。

僻地と言う差別言葉をなくす為にも、山古志村の復興は、これからの全国に住む過疎地と言われるところに住んでいる住民のモデルになるのではないか???災害を受けた事を契機に、そんな事を、元村長は言いたかったし、考えているのではないか。結果を云々言う前に、山古志村で起きた事実に、直面に真っ向から対応した、元村長の貴重な体験談の話は、防災リーダーの胸を打った。更に避難した村民が皆々村へ帰りたい、と訴えたこと、子ども達がこの村で生まれたことに誇りを持った、と元村長が言われた言葉に感動した。防災リーダー達に、明日にも来てもおかしくないと言われている、東海・東南海地震に対応する為に、何を!今なすべきか、を問いかけた元村長の痛烈なメッセージと受け止めて、感想文といたします。

錦鯉の泳ぐ池を眺めながら、牛肉のすき焼きを食い、越乃寒梅で一杯・・・ そして魚沼産のコシヒカリで山の山菜を食する、 そんな夢が実現するよう、応援したい・・・祈るのみ



松代気象台精密地震観測室



山古志木籠地区水没住宅



2 アレルギーっ子防災対策に参加して 江南支部 今井 節子

平成21年7月11日(土) 午前10時から、名古屋市港防災センター3階 研修室において、研修部主催の「アレルギーっ子防災対策」の講習会がありました。

始めに、講師の中西里英子氏から、「アレルギー支援ネットワーク」は、中越・中越沖地 震等で、アレルギー児に対する救援活動を始めたことがきっかけで結成され、アレルギー 患者(親の会)と専門家とが行政機関への橋渡しとして広範囲に活動している会であると 説明がありました。

講演の内容は

アレルギーとは何か・・・食べ物から生じた病気。

アレルギーの現状・・・増加していて、国民の3人に1人が疾病患者である。

全国の小・中学校で、喘息・アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、結膜炎、食物 アレルギーなどの児童・生徒が増えている。

特に食物アレルギー児は,アナフィラキシーショック(少しの摂取でも死に至ることがある)の心配があるので注意する必要がある。

アレルギーの方への、普段からの対応と留意点

災害時におけるアレルギーの方への対応と配慮事項 などについて学びました。

食物アレルギーの方がいることを知ってはいたが、 と については、日ごろからのコミュニケーションが大切で、いざと言う時にはどうすべきかを私達は知っておき、活動のなかに取り入れていかなければいけないと思いました。

今後の大きな課題となる第一歩として、今出来ることから連携して活動していくことが 大切だと感じました。

文明科学の発達により食生活の豊富・欠食などがアレルギー疾患の患者を増加し、今では3人に1人が病気だという食物アレルギーや環境公害汚染アレルギーなど。アナフィラキシーショックと言う死にいたる恐さと、また食べられない25食品の多さにはびっくりしました。地域防災訓練で配布される非常食にも注意が必要で気をつけることなど、良い

勉強になり、食育への関心も深まりました。もっとアレルギーのことを知ってもらうために、いただいてきた紙芝居(注)を持って啓発活動をします。

講演後、アレルギー対応のアルファ化 米(安心米)非常食の試食があり、3種 類ともおいしくいただきました。

非常に参考になり、有意義な講習会で した。ありがとうございました。



(注)紙芝居は、各支部にあります。 ブロック幹事にお尋ねください。



3 防災よもやま話 25

8月の最初の一週間の報告 名古屋大学大学院教授 福和 伸夫

みなさんこんにちは。

この原稿は、8月7日に書いています。今日は一日かけて三重県庁の講堂で開催された 大規模な災害図上訓練に参加してきました。この訓練には、三重県庁の各部署の方々に加 え、自衛隊、警察、海上保安庁、気象庁、国土交通省、日赤、中部電力、東邦瓦斯など、 災害対応の前線で活躍する防災担当者が結集していました。

朝一番に東海地震の警戒宣言が発令されて、災害対応職員が県庁に参集したところに、 東海地震ではなく東南海地震が発生、さらにその後、東海地震も発生し、停電まですると いうリアリティのある訓練でした。参加者にはこのシナリオは全く知らされておらず、臨 機応変な対応が求められました。市町村職員も含め、数百人の参加者が訓練に参加し、真 剣に訓練に取り組んでいました。こういった訓練が災害対応力を増し、さらに日ごろの災 害への備えも確実にさせるのだと思います。私はダメだし(あらさがし?)のための講評 者として出席をしましたが、大変勉強になりました。

64年前の今日(1945年8月7日)は、豊川海軍工廠が大爆撃を受けた日になります。学徒動員されていた若者たちを含め、2500人を超す犠牲者が出ました。そして、昨日(8月6日)は、広島に原爆が投下されて64年になります。戦争末期の度重なる震災と戦災を思い起こさせます。

そして、来る9月11日には東海豪雨から9年を、9月26日には伊勢湾台風から50年を迎えます。最近は、伊勢湾台風50周年に関わるイベントや特集番組・特集記事が多くありますので、風水害の勉強をするには最高のタイミングですね。

今年の空はいつもと違うようで、あちこちで豪雨災害が発生しています。これから台風 シーズンを迎えますので、十分に注意をし、備えておきたいと思います。

さて、今回は、8月の第一週の私の防災活動を報告することで、各地での防災の動きを 見てみることにしましょう。

8月に入って、最初の日曜、8月2日に、静岡県で開催された防災士養成講座にでかけてきました。郵便局長さんが中心に参加されていましたが、静岡育ちの方々にも関わらず、まだ局長さんたちの防災対策は十分ではなかったようです。皆さんこの研修会で心を入れ替え防災士になった暁には、備えの率先市民になってくれると思います。右の写真は私の講演終了時に、家具固定などの備えをやると誓ってくれた参加者の様子です。防災士養成講座は、名古屋でも





9月4~6日に開催されるようです。あいち防災カレッジが終了したために、県民の多く の方々が防災士養成講座に参加されるようです。

そういえば、名古屋市の災害ボランティアコーディネータ養成講座が今年で終わってしまっとの噂を耳にしました。人づくりは継続が命です。ぜひ、皆さん、市長や市議会議員、市役所職員の方々に、養成講座の継続的実施を働き掛けてください。

8月4日(火)には、社会福祉法人AJU自立の家が主催する「災害時要援護者の避難支援、避難生活支援セミナー」に参加しました。このセミナーはウィル愛知で開催され、パネルディスカッションには阪神淡路大震災で被災された障害者 の玉木幸則さん、重度の障害者の娘さんと共に東海豪雨で被災された戸水純江さん、東海地震の被災地・富士市で防災活動を展開されている障害者の望月亜矢子さんが登壇されました。玉木さんと戸水さんの被災体験は身につまされるものでした。とくに、文化住宅に住んでいて、2階建て

家屋が倒壊し生き埋めになった玉木さんの体験談は、迫力満点でした。このセミナーでは、健常者では想像ができない障害者の方々ならではの課題を多く学ぶことができました。パネルディスカッションで改めて思ったのは、災害時に弱者となる可能性のある方々は、健常者よりも日ごろの備えがより重要となるということです。そこで、ここでも皆さんに今日何か一つでも備えをしてくださいとお願いし、右の写真のように手をあげて誓ってもらいました。



翌8月5日には、大府市のあいち健康プラザで開催された「高校生のための学校安全総合セミナー」に終日参加し、元気な高校生の皆さんと一緒に防災の勉強をしました。このセミナーは、愛知県教育委員会が主催し、当日は県下の全県立学校から高校生と教職員636名が参加しました。参加者は、「防犯」「交通安全」「防災」の3つの体験型のコースのどれか一つを受講しました。防災コースは、レスキューストックヤードの栗田さん・松田さんと私の3人が担当しました。私と栗田さんの話の後、防災クイズ、防災運動会、伝言ゲームを実施しました。防災運動会は、下の写真のように大いに盛り上がりました。

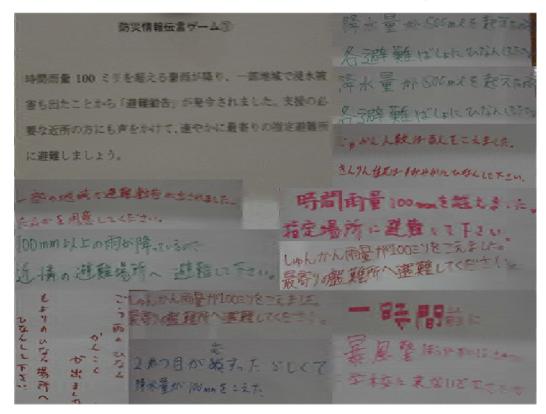






また、伝言ゲームでは、「時間雨量100ミリを超える豪雨が降り一部地域で浸水被害も出たことから「避難勧告」が発令されました。支援の必要な近所の方にも声をかけて、速やかに最寄りの指定避難所に避難しましょう。」という文章を各チーム20人で伝言をしました。10チームの最終的な伝言結果は、下記の通りでした。なぜ、デマが発生するか良く理解ができました。下の文章は、伝言がはやく伝わった順に並んでいます。二つ目と三つ目は教員グループです。さすが、先生方は冷静ですね。

- 瞬間雨量が100ミリを超えました。最寄りの避難場所へ避難してください。
- 豪雨の避難勧告が出ました。もよりの避難場所へ避難してください。
- 時間雨量100mmを超えました。指定場所に避難してください。
- 100mm以上の雨が降っているので近隣の避難場所へ避難してください。
- じゅかん人数は百人を超えました。近隣住民は速やかに避難してください。
- 一部の地域で避難勧告が出されました。たんかを用意してください。
- 降水量が500mlを超えたので各避難場所に避難してください。
- 瞬間雨量が100ミリをこえました。最寄りの避難所に避難してください。
- 2列目がむすったらしくて降水量が100mmを
- 1時間前に暴風警報が解除されても学校に来ないでください。

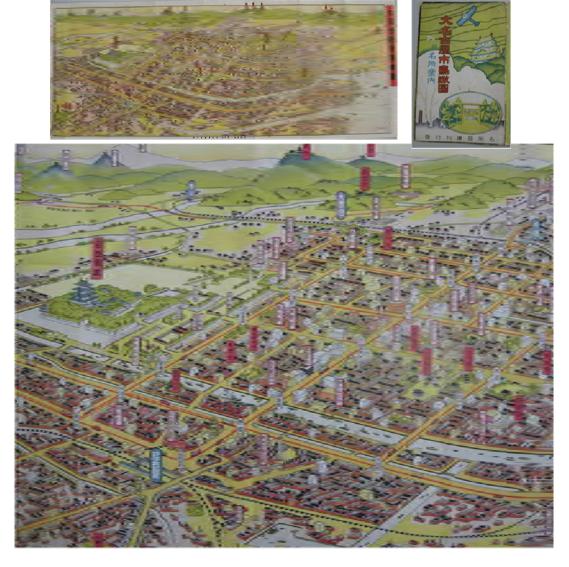


口頭での情報伝達の難しさがよくわかります。日常生活でも、色々な話が2~3人の人を介すると、全く違う物語になっている場面によく出くわしますね。怖いことです。やはり、メモでの伝達が大事ですね 今回防災コースに参加してくれた高校生の中から40人ほどが、8月の末に岡崎の愛知県青年の家で合宿をし、さらに防災の勉強をして、高校生



防災リーダーを目指します。彼らは、高校に戻って同級生たちを啓発してくれることになります。この高校生防災セミナーは、愛知県教育委員会の主催で2004年から続けてきたのですが、財政難で本年度は愛知建築地震災害軽減システム研究協議会(減災協議会)に支援をお願いしてなんとか継続することになりました。来年度以降、どのように継続するか、教育委員会の皆さん、レスキューストックヤードの栗田さんと一緒に頭を痛めているところです。

さて、あいち健康プラザのすぐ近くに東浦町立郷土資料館(うのはな館)があります。 東浦町は徳川家康の母・於大の方や、塩田やぶどうで有名な場所です。うのはな館で面白 いものを見ることができると知り、セミナーのお昼休みに、訪ねてきました。うのはな館 には、愛知の郷土史家、服部徳次郎氏が寄贈したコレクションが保管されています。服部 徳次郎氏は、3次元鳥瞰図を多数残した吉田初三郎の作品を多数蒐集していました。当日 は時間がなかったので、数点の作品を収蔵庫から出してもらって写真にとってきました。 下に示すのは名古屋市の鳥瞰図で、昭和6年刊行のものです。





この絵から、築地口が陸の先端であったこと、市街地は千種あたりまでで名古屋城の北には何もなかったこと、今池は野原で池下近くに蝮池があって覚王山より東には何もないこと、県庁や市役所はまだ栄にあること、大須には塔があり寺社が集まっていたこと、名古屋駅はまだ笹島にあったこと、桜通り・錦通り・白河通りはまだなかったことなど、今との違いがよくわかります。

一度、東浦に出かけてじっくり眺めてみてはどうでしょう。名古屋だけでなく、愛知県下の色々な市町村の鳥瞰図が残っています。鳥瞰図なので同時に街並みが一見して分かります。前回ご覧いただいた尾張名所図会とはまた異なった形で当時の様子を実感することができます。これらの絵と今の地図を比べることで、災害危険度の変化をわが事と感じてもらえると、防災対策が進むのではないかと思います。

今回は8月第一週の出来事を通して、当地の防災活動の一端を覗いてみました。皆様も、 それぞれの地域の足元を覗いてみてはどうでしょうか?

4 清須市東部自主防災会の防災訓練 清須支部 武藤 康正

平成21年9月6日(日) 朝から大変暑い日でしたが、清須市として初めて自衛隊の参加で、新川東部ふれあい防災センターでAM9:30から開催されました。

東部自主防災会は、年2回防災訓練を実施しております。市長や防災担当職員、市議会議員の有志、新川地区消防団、4町内の皆さん等400人以上の大勢の参加をいただきました。 訓練内容は、

- A.自衛隊車両による情報偵察と避難物資搬送の模擬訓練と見学。
- B. 自主防災会による 人口呼吸訓練

三角巾による応急処置訓練、簡易担架つくり 消火訓練(天ぷら鍋消火含む消火器訓練)とバケツリレー 自衛隊車両展示 です。

特に、天ぷら鍋消火方法については、身近なことでもあり関心も高く、説明 と消火対応と消火結果に、皆さん納得ができたようで、これからすぐ役立つ良 い訓練だと思いました。

C. 新川消防団による可搬式出水訓練。



人工呼吸訓練



消火器訓練



訓練終了後、リニューアルした防災センター2F各部屋(21年7月末に一部改修)の 見学会や、防災DVD上映と防災備品展示も併催。新設された身障者用エレベーターで車 椅子での乗車体験もしていただきました。

また、炊き出しとして、初めてカレーを準備いたしました。日陰の場所や2階の避難場所になる部屋で試食していただきましたが、おかわりをする方もあり好評でありました。帰りには参加者全員にお茶と非常食(クラッカーと安心米)をお持ち帰りいただきました。大変有意義な防災訓練でした。

5 **北名古屋市防災訓練総合会場 D I G 講習** 北名古屋支部 山下喜三子



自主防災会(自治会)の3グループと市職員の2グループ、約80人が参加され(予定57名)ちょっぴり定員オーバーなのではと心配しつつも、にぎやかな講習会となりました。

防災会グループは、子どもも含めた老若男女で、 いつもの生活そのままにリーダー格の男性を中心 に積極的に課題に取り組んでいただきました。発

表では地域自慢も飛び出すなど、元気いっぱい和やかな空気に包まれて好感を持ちました。 市職員のグループは、さすが市全体を熟知されていてすばらしい地図の仕上がりでした。 発表もてきぱきと的を得てよかったと思います。

講習会の始めに行政担当者から、災害時の要援護者支援について詳しい説明があり、より安心・安全な街に近づいてきました。その後約一時間で足早に課題を進め、全グループに何と2分以内で発表していただきました。

最後の講評で、伝えたいことは山ほどあった私でしたが、気持ちだけ空回りして不充分さを痛感!!反省ばかり残っています。ファシリテーターの皆さんは、それぞれ個性を発揮してサポーターに徹していただき、定刻通りに終わることができたと感謝しています。 次回はコーディネーターとして挑戦されることを願っています。

【 ファシリテーターの皆さんからのコメント 】

市職員担当

- ・ 市に関係したことは良く把握されていましたが、地域との関わり合いが少ないために、判らなかったことも多くありました。(杉野 久代)
- ・ 皆さん初めてだったので、とても楽しかったと言っていました。朝の準備を職員にも手伝ってもらったら良かったのでは・・・(職員さん)



当日、足りない材料があったので、きちんと確認が必要だと思いました。 (中西 ハツエ)

久地野担当

・ 若い男性・女性が積極的に参加された。人数が多く、やりにくかったのではないかと思いました。 (杉野 光夫)

高田寺担当

・ 1 グループの人数が多くて、どうなるのかと思いましたが、皆さんの協力で和 気あいあいと賑やかに、スムーズに出来て楽しく終わりました。(徳田 紀久子)

二子担当

・ 皆さんが、真面目に丁寧に取り組んでくださいました。時間が足りなくなるか と心配しましたが、無事終わりほっとしました。この講習が役立つことを願ってい ます。(杉浦 緑)

北名古屋市防災訓練に参加して 北名古屋支部 堀内 千秋

8月23日 市の防災訓練が各小学校で行われました。

総合練習会場(南小学校)ではシミュレーションとDIG演習、他2校ではDIGを行いました。参加メンバーは今回初めてコーディネートする人、ファシリテーターとなる人など、会員の半数以上のメンバーが参加しました。

私は白木小学校で、自主防災会40名中4班でした。一番良く出来て良かったです。時間は1時間15分でしたが、参加者の三分の一くらいは「防災メンバー」で、後は自治会

の役員の方でした。

この地域は世帯数が少なく、 地元の方が多いので、地域内の シール貼りは皆で話し合いスム ーズに行われました。

最後の問題点(長所、短所) も活発に意見が出て、B紙にま とめるのも早くでき、時間内に 行うことができました。DIG も1時間30分以内で行うこと が多いため、私達もなれてきま



した。

あと感じたことは、これから北名古屋の課題を見つけ、より一層身近に思えるDIGに していけたら良いと思いました。楽しい半日を過ごすことができました。



6 家具転倒防止活動

一宮支部 伊藤 善之

一宮市では、平成21年4月より各種団体の市民活動に対し、市民が投票で推薦する団体を選んで助成金を出す、市民活動支援制度が始まりました。市民税の1%以内で最大約2億円を各団体に配分するものです。

一宮支部では、一宮の他の防災3団体とネットワークを結成しており、この名で「家具 転倒防止支援事業」を申請し、市民のご支援により計画通りの助成金を得ることができま した。

事業の内容は、65歳以上の高齢者や体の不自由な方のお宅の家具固定を支援するもので、金具等部品代は利用者負担、取付は我々が実施してボランティアで行うものです。

6.7月に家具固定の勉強会を実施しました。5月から利用者からの取付の要望を受け付け、6月から月3件ほどのペースで実行に入りました。

家具は、タンス・本箱・サイドボード・冷蔵庫・食器棚・仏壇などで、固定方法も、L型金具、アイストラップ、観音開き扉止などでした。L型金具の場合柱や胴縁が直近にない時、横木を渡して固定をしました。畳の上に自立している仏壇の固定には、大変苦労をしました。固定の事例の一部を下記に紹介します。



柱間に横木を渡してL型金具固定



冷蔵庫をアイストラップで固定

7 小学校での「防災のはなし」

稲沢支部 川村荘一朗

稲沢市教育委員会の理解を得て毎年小学校2校で「防災のはなし」をしている。

対象は 5 年生か 6 年生としている。この年齢なら社会事象への理解力が備わり、上級生としての自覚も出来ている、と考えるからだ。担任教師との事前打ち合わせは、小学校での防災学習の進み具合の把握が中心となる。

当日の服装は防災リーダー会のベスト・長袖シャツは必須。持ち物は、ペール缶のトイレ・地震報道写真集・非常持ち出し袋と中味・配布用パンフレット「防災・減災お役立ちガイド」・鍵束につけたホイッスルと小型ライトなど。

まず、何も説明をしないで、木の便座とペール缶のトイレから入る。初めて見る物に、



好奇の目・目・目。出だしはこれでOK。

次は、神戸や山古志の報道写真集。投影機で悲惨な場面をTVの画面に映す。崩れた高速道路から前半分を乗り出したバスに「スゲー」の声。

備蓄品のところでは非常持ち出し袋の中身を披露する。目玉は、直径7.5 cm・高さ 15 cm・重さ580gの大ローソク。「つけてみて」とリクエストがくる。こうなると、やっているこちらも楽しくなる。

時には、全員に「紙ぶるる」を事前に工作させて、ゆすったり感想を聞いたりすること もある。

万一のときには、上級生として下級生の面倒を見ること、親や先生の手伝いを進んですることを約束して結ぶ。(この部分は先生も賛同)

小学校の45分授業はあっという間に終わってしまう。後日、学校から小学生の作文を 貰うことがある「家具の転倒防止や備蓄品について、家族会議をしました。」、「家具の転倒 防止の手伝いをしました。」と。 次もまたガンバルか・・・





R

HUG(避難所運営ゲーム)講習会 開催のお知らせ

日 時 平成21年12月12日(土)

9:30~12:00

場 所 北名古屋市総合福祉センター

もえの丘 ふれあい広場

内 容 HUG(避難所運営ゲーム)の実習

詳しくは別紙案内チラシをご覧のうえ、お申し込みください。

次号 " A P L A 通信西尾張版第 1 2 号 " は, 1 2 月 2 5 日の発行予定です。 会員の皆様のご投稿や、ご意見ご要望をお待ちしています。 広報部